評価項目	本年度の重点取組	具体的な取組と指標 * 活動指標	令和4年度 学校関係者評価書(様式) 成果と課題	学校関係者評価	今後に向けて
		●児童が主体的に授業に取組めるように、課題を工夫する *児童が思い(~たい)や疑問(なぜ、どうして)をもてるような課題づくりや、授業展開 を考える。	○児童がもつ思いや疑問を取り上げることで、児童の学習意欲を高めることにつながった。今後も引き続き、課題の工夫を意識した日々の授業づくりを全職員で統一して行っていくようにする。		業づくりや、ICT機器を活用した授業づくりを 行っていくことで、学校の勉強は楽しいと感じ
	・子どもが見通しをもって思 いや疑問をもち実現・解決す	* 児童の思いや疑問を解決する手立てをもち授業を行う。 * 児童アンケート「学校の勉強は楽しい、まあまあ楽しい」…85%以上	○全体で4本、各教科部で公開授業を行ったことで、他学年や他教科部会の教師間で授業の工夫を交流することができた。 ○児童アンケートでは、「学校の勉強は楽しい、まあまあ楽しい」が88%、「教科に	に終わってしまう。発言力もなく「まあいいか」と終わってしまう。この時点までは意欲的で前向きに授業参加していたと思う。先生方からも、課題の違う考え方を発信して、皆で考え話し合う。	が実生活の場面で活用できることもについて も授業の中で伝えていきたい。 ・子どもがもった疑問は扱える範囲で授業に取
	る授業づくり	●教科部会を核に据えた研修を進める。 * 研修教科を4教科とし、各教科部会に分かれることで専門性を高める。 * 各教科より1回ずつ、全体での公開授業を行う。 * 各グループでは、年に1回担任が公開授業を行う。 * 児童アンケート「教科によって先生がかわることはよい、まあよい」…80%以上(5・6年生)	△児童アンケートでは、否定的な回答をした児童も少なくない状況である。これらの 児童は日々の授業でつまずきを感じていると考えられる。まずは担任が児童に寄り	あったのかが重要だと思う。	伝えるか、自主学習を勧めたい。 ・教科担任制に対して肯定的な印象であったことは成果である。今年の取組を来年度に引き継ぎ、より良い授業づくりにつなげていきた
	・一人ひとりの子どもの学びの充実、学力の定着	・少人数指導による一人ひとりの子どもの学びの充実 *1年生から4年生週1時間の少人数指導の実施 *5年生と6年生週2時間の少人数指導の実施	○1つの学級を複数の教員で指導できるため、子ども一人ひとりの学習の進捗状況を把握できるとともに、きめ細やかな指導ができる。 ○授業では行き届かない部分を、モジュール学習で補うことができる。また、ワークシートを活用し、児童の苦手な内容を定期的に振り返ることができた。今年度より行っている家庭学習チェックシートでは、家庭学習への意識の向上が見られた。児童や保護者の感想から肯定的な意見を多くいただいた。平日の家庭学習の時間やゲームの時間が1学期から2学期にかけて改善傾向となっている。	「・又接貝のフォローが成果を仮押ししています。又接貝の増貝をお願いします。 ます。 ・スドキのスクリーンタイルは、減ることはなく変わってないのが現状です。	・スクリーンタイムの時間については、家庭との連携が不可欠である。生徒指導のノーメディアデーや家庭学習チェック表に取組み、結果等を学年通信で啓発していきたい。 ・3~6年生についても宿題を行う意義や努力
		・モジュール学習、家庭学習での基礎学力の定着 *漢字や計算の補充学習を行う。	○支援員さんによるブックトークや読み聞かせの取組、図書祭りなどで、読書に親しむことができた。今年度途中より1回の貸し出し冊数を2冊にしたことで、昨年度よりも1人あたりの貸し出し冊数が増えた。読書の時間(1日10分以上)の割合が昨年度より4%ほど増えている。	・図書祭リナスども達け楽しくで取組くでいた。ポイン人制の取組がゲー	の大切さを伝え、前向きに取組んでもらえるように指導したい。また、スクリーンタイムと併せて、家庭学習についての啓発も行っていきたい。
		* 三重県や鈴鹿市から提供されるワークシートの活用 * 家庭学習強化週間を行い、家庭学習の充実を図る ・読書活動の推進	△少人数指導の回数が週1時間、もしくは2時間であるため、効果の高い学習内容の授業のときに少人数指導ができるとは限らない。また、担任と支援する教員との打ち合わせができないときがある。	られるようにして、特に強化したい時期にはポイント〇倍などキャンペーン期間を設けるのはどうか? ・少人数指導について、担任と支援教員とで打ち合わせが不十分な時が	・読書活動の推進については、来年度も図書 委員会と連携しながら、取組を進めていきたい。 ・地域のボランティアさんにも、教育補助的な
		*巡回図書支援員の活用(ブックトークなど) *ボランティアさんや教員による読み聞かせの実施 *図書祭りの実施	まだまだ基礎基本が身についていない子どもも多く、特に高学年では、これまでの	生活面においても多様な考えのもと対策を講じるのが難しい上、手間のか	
2 特別支援教育		●支援ファイル、個別の支援計画等を活用した校内関係者会議の充実 *支援会議… 約45回(引継ぎのための支援会議を含めると60回程度) *チーム支援・・・毎週火曜日の1時間目にCo会議(管理職・正Co・副Co3名)を開き、 支援の必要な児童についての情報共有を行いながら、支援の方法を考える。	○支援の必要な児童についての情報共有をしてきたことで、学年・学校全体で児童を支援するという意識がすすんでいる。 ○支援員やスクールライフサポーター、スクールカウンセラーとも常に情報共有し、	・さくらルームへの人的配置については、高く評価します。適応指導は一対 ーの指導になります。より一層の恒常的配置を強く要望します。 ・担任の先生だけでなく学年・学校全体で取組んでいただき情報を共有し ていただくことはとてもありがたいし、安心感がある。実際にうちにも家庭	も、児童や保護者の意向を尊重しながら、よりよい支援の方法を探っていく。そのために、関係機関から専門の講師を招聘し、特別支援教
	・配慮・支援が必要な児童への取組の充実	●担任やCoによる家庭訪問 *継続的な対応・・・家庭訪問シートを活用しての情報共有(1月末で150件の家庭訪		にとっても、担任の先生だけでなく自分のことを気にかけてくれる先生が複	
		問) ●さくらルーム(適応指導教室)での支援 *児童に応じた個別の学習支援、担任との連携	へのきめ細やかな指導が可能になった。		ら、保護者との信頼関係を築くことを大切にし
	・多文化共生教育の取組の充 実		○全ての学年において多文化共生教育を行った。今年度は人権教育の中で多くの クラスが外国籍児童を核にし、周りの児童の関わりを問い直す取組を行った。子ど もたちは、身近な先生や仲間の話などから、言葉が分からないことからくる不安や 困り感に思いをめぐらせ、その子への関わり方を考えることを通して、共生につい	・外国の子どもたちに母国語を教えてもらう授業をするのもよいと思いま	
		●外国につながる児童理解のための取組	て理解を深めることができた。 〇今年度は、日本語以外の動画資料を用いた職員研修を行った。クラスにいる外国籍の子どもたちが普段どのように感じているかを職員自身が体験をすることで、より具体的な支援方法を確認することができた。		い。単発的な取組をするだけでなく、一年間を
		* 学習活動・バンドスケール等	○学習活動においては、国際教室の担当が在籍学級へ支援に入ったり、国際教室で取り出し授業を行ったりしている。算数などの学習では、日常会話ができていても学習言語が難しい児童を中心に、母語や日本語で補足することで理解が進み、少しずつ学習に自信がついてきている。 ○外国文化の理解を深める環境づくりに努めた。子どもたちがより身近に外国の文化を感じることができるように、廊下や階段にポスターを貼ったり、世界の挨拶地図や世界の色一覧を掲示したりした。母国だけでなく、友達の国に興味をもつことができた。	だと思う。 ・各学年で多文化共生教育を行ったとのことなので、もうすでに実施済かもしれないが、それぞれの国の遊びをみんなでやってみては?遊びを通して他国の文化に触れるのは座学だけより子ども達も楽しいと思う。	ていく。 ・日本語支援については、県や市の学習支援
			〇バンドスケール会議では、児童一人一人の課題を把握し、具体的な支援につながっている。今年度の支援が来年度にスムーズに引き継がれ、日本語支援の必要な子ども全てが安心して学習できる環境づくりに引き続き取組みたい。		
				・小さなことでも秀でた成果を上げた方に、学校でミニ講演を行っていただ	
		●自分自身を見つめる取組	につながるように取組んだ。特に、児童が書いた内容に対して必ず担任が共感したことや解決に向けての提案などを書いて返すように取り組んだ。また、児童が書いた内容に価値があることも伝えていった。 〇学校が一体となって自尊感情を高めるために、校内で連携して取組む体制づくり	思うので、これからも取組を続けていってほしい。 ・自尊感情を高めることはとてもとても重要なことだと思うのでここに重きを	・引き続き、自尊感情を高める取組として、「つづり方」に力を入れて進めていきたい。特に、 教職員の入れ替わりがあったとしても、常に年 度当初に「つづり方」の意義や目的、取り組み
	・自尊感情を高める取組の充 実	*「生活つづり方」の取組 *(児童アンケート)「自分にはよいところがあると思う」…70%以上	を進めた。具体的には、人権委員会が学力保障(研修委員会)と生徒指導(生指委員会)と連携をとり、生活や学習の中など学校生活すべてにおいて相手を受け止めて聴き合う関係をつくる指導を進めた。聴き合う関係ができれば、相手に受け止めてもらえた実感をもつことができ、自尊感情を高めることにつながるからである。	・児童アンケートの結果、自分には良いところがあると答えた子の割合が	方などについて共通理解をはかり、全教職員 が同じ思いを持って子どもにかかわっていけ るような意識を大切にしていく。
		●相手を受けとめ、聴き合う関係の構築 * 学力保障・生徒指導との連携	△児童アンケート「自分にはよいところがあると思う」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた児童は1学期74%、2学期70%であった。経年変化としては、あまり変わらないものの、今後も引き続き取組みが必要である。「あまり	・そう思わないと答えた子に対しての手厚いフォローを望む。 ・具体的な姿や場面を本人だけでなくみんなの前でも伝えていくことが大事なのではないかと思う。	・「自分には、よいところがある」と感じることが できていない子どもがいることにも、しっかりと 目を向ける。その背景には何があるのか、本 人の生い立ちや生活背景、学校での様子や
3 人権教育			思わない」「思わない」と答えた児童には、具体的な姿や場面、そしてつづり方を通して、その子が実感をもてるように伝え続ける必要がある。そのために、教師がその子の生活背景を含めて見つめ続けることで、その子ならではのよさを見つけていくことが重要である。	いと思う。また、常にそれが目に入るように教室に掲示してはどうか・大人から押し付けではなく、自分のことを自分でしっかりと考えるためにも	友達関係、思いや願いなどを受け止められる よう、子どもを見続けることを意識していく。
			〇新型コロナウイルス感染症に関わる偏見やいじめ・差別をしない・ゆるさない取 組を定期的に行ってきた。具体的には、もし病気になったうわさを聞いたとき、どの	・これけ 家庭教育が一番大切なことだと思います 学校でけ小さな事象	
		●いじめや差別を許さない取組*いじめをゆるさない「ピンクシャツ運動」	ように行動したらよいかなど、自分自身に引きよせて具体的な行動につながる指導を全学年学級で行った。 〇11月の1か月間を通して、いじめをゆるさない「ピンクシャツ運動」に取り組んだ。	に対し適宜適切に指導している姿が見られます。 ・上記の取組を行うことが周りの人を大切にすることにつながるのではないかと思う。	が、ひいては周りの子どもたちのロールモデ
	・周りの人を大切にする仲間づくりの充実			けていってほしい。 ・先生が数名のつづり方を紹介するとあるが、その数名に偏りが出ないように配慮をお願いしたい。	ながると考えて取組んでいく。 ・「つづり方」とともに、「語る会」についても、相 手を受け止める場として、引き続き大切にしな
		●共感と多様性の視点を育む取組 *「語る会」の取組 *(児童アンケート)「先生は自分の話をよく聴いてくれたり、自分のことを認めてくれたりする」…90%以上	経験を持つ児童にとっては共感につながり、また異なる思いや経験を持つ児童に	る会はやってない」などクラスによって偏りがあるよう。せっかくいい取組だと思うのでなるべく回数を増やし、また、なるべくクラスによっての偏りがないことをお願いしたい。	うな経験があると相手に共感を感じながら聴く こと、そして同時に、一人ひとりで思いや考え 方はちがうという多様性の視点を持つことにつ
			とっては、人それぞれによって多様な思いや経験があることを知る機会となった。 少しずつではあるが、仲間づくりにつながるような不安や悩みを出し、受け止める 機会が出てきている。今後も、「語る会」においてまずは教師が聴いて受け止める モデルとなり、互いを大切にする仲間づくりにつなげていくことが重要である。	・集団で行動することが減り,仲間意識は育ちにくいここ数年だったように思います。今後は楽しい時間を共有できるような機械が多くなればと思います。	
			〇職員向けの通信として、生活指導だよりを発行した。生活指導事案の全体周知 や情報共有、全校で共通して指導すべき内容を掲載した。また、週に一度の打ち合 わせで全体指導に関する共通事項の確認、毎週金曜日に行う学年主任会で学年 で起こっている生活指導事案を共有している。職員同士の共通理解や事案の共有		
			を図ったことで、学校全体で統一された指導ができた。 〇ノーメディアデーの取り組みを行ったことで、期間中にスマートフォンやゲームの 使い方をふりかえることができていた。保護者の方からも肯定的な意見が多かった ため、今後も定期的に行っていく。	・ノーメディアの取組は評価できます。各家庭において、早煮早起きを進めることが大切だと思います。	
	・よりよい生活態度,生活習慣	●組織的な生徒指導を推進するための生徒指導だよりの発行,打ち合わせや主任会での情報共有	〇昨年度と同様に「あいさつ」「チャイム席」「きれいな学校」を生活指導の3つの柱として、児童たちに指導を行った。チャイム前放送の取り組みや、時間を守る声かけを教員が行ってきたことで、児童同士でも声をかけて時間を守る意識ができ、学校全体が落ち着いて学校生活を送ることができている。	ノーメディアデーは、その時だけでも意識して取組んでいるので効果があると思う。今後もこまめに実施していただけたらいいと思う。ただメディアから遠ざける事だけをいうのではなく、例えばその期間は学校の校庭で遊んでもいいよ。としたり〇時まで図書室を開放します。としたりして子ども達が	案発生時の報告と早期対応を行うことを継続 していく。また、生指だよりの発行や打ち合わ
	の確立	*月1回以上発行	・二学期児童アンケートでは、「当番や係の仕事、児童会や委員会の仕事に進んで取り組んでいる。」の質問に対して、97%の児童が「している」「どちらかといえばしている」と回答した。定期的に振り返りをさせること、担当教師の明確な指示指導と適切な評価が重要である。肯定的な回答が多いが、高学年児童の回答は、「して	メディア以外に時間を使う場所などをセットで準備していただき、提案いただけるとありがたい。 当番、係りの仕事等、小学校では児童も積極的に取組んでいるように感じ	こらないよう取り組みを進めていく。今後も定期的に、3つの柱に関連した強化週間を設け
4 生徒指導			いる」の回答が減少し、「どちらかといえばしている」と回答する児童の割合が増加していた。児童個人へのできていることを認める声かけや、何をすればよいか分からない児童にはこちらから役割を与えるなどして、仕事をやり遂げる経験を積ませていく。	る。ただ作業をこなすのではなく自分なりに意識して行えているのは先生 方の指導が 適切だからだと思う。	
			△「ふだん何時ごろに寝ますか。」の質問では、10時以降に寝ている児童の割合が36%となり、昨年度の二学期のアンケート結果より3%増加た。睡眠の大切さや情報機器の扱い方に関する指導の強化、家庭の協力の必要性を感じる。 *実績値:1学期8回 2学期以降6回		
			〇教室内ではあいさつをする児童は多い。教室外でもあいさつができる児童を増やしていく必要があると感じる。あいさつに関する活動としては、児童会が中心となり、元気なあいさつをしてくれた子にカードを配る取り組みや、各クラスにあいさつ 運動の担当日を割り当て運動を行うあいさつ部活動を行った。取り組みがある日は		・教室外でのあいさつを増やせるよう取り組みを進める必要がある。自分からのあいさつが
		●自然なあいさつをする習慣の育成	積極的にあいさつをする姿が見られた。 △一方で、行事などが終わると意識が低下する児童が多いことが課題である。廊 下や登下校中に自分からあいさつができる児童は少なく、一部の児童はあいさつ をしても返さない。教師が継続してあいさつの大切さを伝え、通学路などでも地域	・「おはよう」のあいさつは地域では返してくれます。 ・元気なあいさつをした子にカードを配る取組はいいと思う。それを発展させて、そのカードの枚数をクラスで集めて、クラス対抗にするのはどうか?	できている児童が少ないため、あいさつの大切さについて各クラスでの指導を続け、自然なあいさつができる子どもの育成を目指したい。 ・児童が主体となって取り組める行事だけでな
	・あいさつ運動の工夫・充実	* (児童アンケート) 「誰にでも進んで挨拶をしている」…80%以上	の方へのあいさつができるよう指導を続ける必要がある。 △アンケートの結果から、誰にでも進んであいさつをしているの質問に「している」 「どちらかといえばしている」と回答した児童の割合が3%減少している。 恥ずかしさ からか、高学年になるほどあいさつをしない子が多い。 コロナ禍によるマスク着用	をするというに具体的な言葉を教えるのはとうか:掲示板で啓発するのも	
			の影響もあるのか、マスクを外すことができない子がいることも少なからず影響しているのではないか。 *「誰にでもすすんであいさつをしている。」	いいと思う。 あいさつは親の日常の態度が一番影響している項目だと感じる。家庭で の様子がそのまま子ども達のあいさつになって見えてくる。あいさつ運動 の取組はとても良いことだと思う。	・児童への指導と合わせて、教師側も一人ひとりの児童に対して、目を見てあいさつをすることを意識し取り組んでいく。
			1学期 83% 2学期 80% ○誘拐予告メール等、緊急な対応が必要になった時、自治会や民生委員さんの協	・連れ去りメールなど,子どもたちも不安を感じ生活していることが残念で	・見守り隊のみなさんの情報をまとめていく。
5 地 域	・命を守る取組の充実	・見守り安心安全活動の充実を図る ・見守り活動の把握に務める ・緊急時における連携を充実させる	カを得て、たくさんの方に見守って頂いた。地域の皆さんの連携、地域力を感じた。 〇コロナ感染症拡大に伴い見守り活動の継続が難しくなったことに加え、活動いた だいていた地域の方の高齢化もあり、実態が把握できていない部分があった。そこ で自治会にお願いして、改めて登録していただき把握に努めた。	 ・地域の子どもたちは地域住民で守りたい ・日ごろから地域が協力して見守りなどをすることはいろいろな犯罪の抑止力にもなると思うのでこれからも継続してできればいいと思う。 ・見守り活動には、地域の力が必要で多くの方が協力してくださることに助けられ心強く感じられた。今後は自治会の公園に防犯カメラを設置する予 	・今年度の誘拐予告のように、子どもたちの安全を守るために、素早く連携し活動を開始するよう取組んでいく。 ・学校の活動の様子や取組状況を地域に{学
くともにある学校			○本年度は、読み聞かせボランティアの活動を、プロジェクターを活用するなど対	定です。 ・地域には元学校の先生や企業の研究者など、すごく多才な方々が大勢	
			策をとっていただき、年間通して実施することができた。 〇家庭科の学習ボランティアでは、裁縫の授業にはいっていただいたり、2学期後 半には調理実習のサポートに入っていただいたりした。また、2年生では九九の学 習時に、一人ずつ九九を聞いていただくボランティアも行った。子どもたちもやる気	います。 ・子ども達の成長のため、この力を十分使うべきだと思います。 誘拐予告メールがたびたび来て迷惑ではありましたが、多くの方が見守ってくれて、安心できた。	・今年度お世話になったたくさんの地域ボラン ティアの方々に、来年度も学年に応じた内容で のサポートを継続していただけるように依頼し
	・地域ボランティアの協力体制 の推進	●地域人材、地域資源の活用・読み聞かせボランティア・学習支援ボランティア・桜の整備等	を持って学習に取組むことができた。 〇3年生の社会科「スーパーマーケットの秘密を探ろう」では、密を避けるためクラスごとの見学となった。担任一人の引率になるところ、ボランティアとして各クラスに6名ずつ来ていただき安全を確保することができた。	・学音ホランティアの協力を待ることで女宝が確保できたり、よりきの細や かな授業ができたりするのでとてもいいと思う。	ていきたい。 ・今年度初めて行った地域の企業の「ヨシザワ」株式会社の見学は、4年生の社会見学のコースとして位置づけるために連携していきた
がづく		感染状況を踏まえ、必要に応じて検討する	〇4年生の社会見学に、地域の企業である「ヨシザワ」株式会社に見学させていただいた。大変暖かく迎えていただき、説明をいただいた。今後4年生の社会見学のコースとして位置づけていきたいと考える。	・行事や授業の案件ごとにその都度きずなネット等を活用してボランティアを募集してみてもいいのでは?ボランティアとして登録していなくても、得意なことや都合がつくタイミングであれば協力しますよという人もいるのではないかと思うので。	い。 ・ご指摘いただいたように, ボランティアを依頼 していく方法として, きずなネットを活用してい
Ŋ			○3学期に1年生が「昔の遊び」を体験する学習では、たくさんの地域の方にきていただきさめこまかな学びが実現できた。 △桜の整備については、消毒等お世話になるばかりとなってしまった。	・長年にわたるゆるぎないボランティア活動。目標ではありますが難しさを 感じることも多いここ数年でした。子どもたちが学ぶように、大人も人との 繋がりについて学び続ける必要があると痛感した一年でした。	くことについて検討していきたいと考える。
				・小学校を中心として地域社会が存在していると私は思っています。 ・教職員のみなさんのご協力に深く感謝します。 ・家庭と児童,地域社会と児童など,解決しにくい課題も多く山積はしていますが、一つずのエキしながる改善していただければ、または一緒に改善	
				ますが、一つずつ工夫しながら改善していただければ、または一緒に改善できれば、うれしく思います。・クロムブックを毎日持ち帰り、宿題が出ますが、どんな内容の宿題が出るのか、娘に聞いたところ計算問題が1問との事でした。少なくともクロムブッ	
	全体として			クでなくてもよく、もってかえって来る意味がなく感じられます。 ・評価項目4・5にまたがったことになり、上述済ではあるが、放課後の肯定・図書室・次週できる教室の開放を提案。外遊びは体力づくりや運動能力を高めることにつながるが現状は放課後外で遊ぶより家出ゲーム等メ	
				ディアに接する時間の方が多いと思う。外遊びはさせたいが、治安の面から子どもだけで講演に生かせるのは不安に思うおいう保護者もいる。そこで学校の運動場を開放してもらえると安心して遊びに行かせられるのでは	
				ないか。また、図書室・次週ができる教の開放は読書量と家庭学習亨アップ・学力向上につながるのではないかと思う。監督者として自治会や地域ボランティアの方に協力していただくのはどうか・小学校の先生方はとても優秀であり、コロナにも負けず、子どもたちを励せ、過去なけれて話れない。その姿勢に感謝します。ました思考によっている。	
				まし導き続け決して諦めない。その姿勢に感謝します。大人も児童にとっての先生方のような存在が必要なのではないかと時々思うことがあります。地域で子どもも大人も育ち続けることができればと思います。	